

被災地での災害支援活動に参加

この人に
注目



第一東和会病院
リハビリテーション部
理学療法士
森川明 主任



●地震後の輪島朝市跡

令和6年1月1日16時10分ごろに、石川県能登地方で、最大震度7の地震（「令和6年能登半島地震」）が起きました。この災害の支援活動に、東和会グループの理学療法士 森川明さんが参加されました。森川さんは何がきっかけで、どのようなことをするためにこの活動に携われたのでしょうか？インタビューを行ったので、紹介いたします。

災害支援活動のきっかけは？



まずは簡単にプロフィールを教えてください。



2005年に理学療法士の学校を卒業して、第一東和会病院に入職しました。以後、第一病院と第二病院をいきまし、19年、東和会グループにお世話になっております。



さっそくですが、森川さんが災害支援を行うようになったきっかけはありますか？



私は小学校6年生の時に兵庫県西宮市で阪神淡路大震災を経験しました。そこで身近な人物が被害を受けたことが、ずっと心に残っていました。



その経験が土台にあるんですね。



その後、理学療法士になって数年後の2011年3月11日に東日本大震災がありました。そのときに「何かできないかな」と考えたのがきっかけです。



どのように参加されたんですか？



理学療法士協会がボランティアを募集していたので、応募しました。当時の飯田稔理事長に嘆願したところ快く許可してくださり、1週間ボランティアに行かせてもらいました。



それ以降も継続的に支援活動を行っておられるんですね。



そうですね。2016年の熊本地震、2018年の大阪北部地震でも支援活動を行い、そして直近に参加したのが、能登半島地震への災害支援です。

実際の活動の様子



実際にはどのような活動をされているのですか？



被災地では、「生活が不活発になったこと」が原因で、体力や認知機能が低下する病気「生活不活発病」になることがあります。その予防のための運動指導などを行いました。



●個別指導の様子



それは集団で行うのですか？個別に行うのですか？



施設などで集団で行うこともあり、個別訪問して行うこともあります。現地の保健師さんが指導を必要としている団体・個人を見極めて、情報をいただきました。

この活動で得たもの



活動する中で得られたものはありますか？



●避難所の様子



●保健医療福祉調整本部で状況を報告しているところ



被災地では、少ないリソース（資源、物資）で対応しなければなりません。限られたリソースの中で組織的に対応する重要性が分かりました。



効率的な動きが求められるんですね。



そうですね。組織の中で自分がどう動くべきか、相手にどう動いてもらうかを考えながら支援を実行していかなければなりません。これは現在の仕事でも役立っています。

今後の目標について



森川さんの今後の目標を教えてください。



今後は起こりうる災害に対しての準備を行うことが大事だと思っています。30年以内に70～80%起こるとい南海トラフ地震についての備えもその一つです。



よく分かりました。今後の活躍をお祈りしております。ありがとうございました。